

私たち民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です

発行所 宮城県民主医療機関連合会
仙台市青葉区木町通1-8-18
〒980-0801 田村ビル5F
TEL 022-265-2601
FAX 022-263-8266
e-mail:dai@miyagi-min.com
発行人 坂田 匠
1日・15日 月2回発行 1部 50円

**核兵器禁止条約発効2周年
核廃絶ネット発足2周年**
日時▶2023年1月20日(金)14時~16時半
開場▶仙台福祉プラザ2階 ふれあいホール
●記念イベント
第1部 ピアノとチェロの演奏会 福田達也さん/塚野純一さん
第2部 講演会 林田光弘さん(オンライン講演)
長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)特任研究員
主催/核兵器廃絶ネットワークみやぎ
代表 木村耕紗子(宮城県原爆被災者の会) 参加無料
申し込み不要
問い合わせ先/川名(080-2836-8208)

みやぎ民医連

松島医療生協・みやぎ県南医療生協 第3回職員交流集会

顔を合わせて活発に意見交流

10月23日、まつしまの郷を会場に、松島医療生協とみやぎ県南医療生協が合同で、第3回職員交流集会を開催しました。松島医療生協40名、県南医療生協12名、県連5名、合計57名の職員が参加しました。

しばた協同クリニック所長小幡篤さんのあいさつで開会。続いて松島海岸診療所所長の菅野耀介さんを座長に演題発表を行い、両法人から3演題ずつ、計6演題が発表されました。

松島海岸診療所歯科所長の遠藤直樹さんは、「口腔フレイル」について発表。「口腔機能低下」とは、加齢によって口腔内の「感覚」「咀嚼」「嚥下」「唾液分泌」等の機能が少しずつ低下する症状であること、義歯が安定しない患者に、口腔機能低下症の検査を取り入れた結果、義歯が安定した患者が増えたことを報告しました。

しばた協同クリニックの藤原あづささんは、コロナ禍の2年間のクリニックの感染対策について報告。コロナ第一波から現在までの施設内の環境整備、抗原検査や発熱外来、休職後のワ

の有料老人ホームの職員にアンケートを行い、施設の職員が困っていることや松島海岸診療所への要望をつかみ、連携の改善に生かした取り組みを発表しました。

県南医療生協の小山茂樹さんからは、県連の災害公営住宅訪問調査結果をもとに山元町と懇談した内容が報告されました。

最後に、県連の宮沼弘明会長から講評をいただきました。休憩後のワールドカフェ



ワールドカフェ シャッフル中

「コロナ禍のスタッフ間コミュニケーションのとり方」「人材育成について」「多職種連携で大切なこと」「10年後の松島医療生協について」などの様々な課題に対し、意見を伝え合いました。3回のシャッフルで複数の職員から話を聞いた相談者は、「色々な話を聞かれました。」

健康手帳
寒さが増してきて、地域の野良猫さんたちが過ごす環境も厳しくなっているようです。▼我が家の縁台下に置いた段ボールの中で過ごす黒猫さんを見つけたのはひと月ほど前のこと。塩釜の北西部の山の中に位置する我が家は、周辺に雑木林も多く、地域猫もたくさん居る。その中で我が家にわざわざ来るのは、集団で暮らせなかったか?▼そして数週間からは別のトラ猫さんもやってくるようになった。トラ猫さんを見るからには福福としていて、ほっぺは垂れ下がってまん丸だ。黒猫さんよりも体も大きく、怯えた黒猫さんは我が家から姿を消した。▼牛乳と力りカリ(エサ)を手にした中年夫婦の我々は、猫の社会を窓からそっと見守る毎日。トラ猫さんを見てみると、あたかも黒猫さんに取り分を残しているかのようになり、半分だけご飯を食べて帰る。▼数日後、時間を空けて黒猫さんも舞い戻ってきた。お互い様と助け合って分け合って生きていく姿に、ちょっと感動したりもするのである。人間もお互い様の心、忘れずにいたいものだ。

福祉ウェーブ学習会開催

余裕をもって 保育や介護をするために

厚生福祉社会事務局長 大内 誠

宮城県民医連も構成団体である「福祉ウェーブ実行委員会」は、11月13日に福祉ウェーブ学習会「私の署名のすすめ方」を行いました。107名が参加しました。鈴木留美子さん(県連介護福祉部部長)が、介護職員不足や国で議論されている介護保険改悪に触れながらあいさつ。幼稚園児の送迎バス置き去り事故についても、「現場の努力だけでは限界」であり、国の責任で体制強化を

集会は、署名の内容を一人ひとりが深めることを目的に開催され、「私たちがしたい保育・介護」についてグループワークを行いました。介護の現場からは、なり手が少ない背景に賃金や処遇の問題があること。デイケアやデイサービスではコロナ禍でパーテーションが置かれ、利用者同士のコミュニケーションも取れない苦勞や、特養では入居者に「自分の家」と思

ってもらえるような深い関わりをする余裕がないことなどが出されました。保育の現場からは、「子どもも保護者も一人ひとりを大切にできる余裕がない」「連絡帳にたくさん書いてくる保護者にきちんと返事する時間がない」、もっと子どもと遊ぶ時間を取り、保護者にも丁寧な寄り添いたい思いや、保育者同士のコミュニケーションをとる時間的余裕もないことが出されました。

よい保育や介護をするためにはどうしたらいいか。体制不足の改善には、労働に見合っただけの配置基準の見直しと、賃金の抜本的な改善が必要です。安心して利用できる

保険料・利用料・保育料であることも重要で、国の予算確保が必要です。「骨太方針」による社会保障費の自然増すら認めず、社会保障にはお金を掛けないという方針が根本の問題です。現場の実態を届けていく活動の一つとして、署名活動を進めていくことを参加者で確認しました。

最後に、2人1組となり、自分の言葉で署名の大事な部分をお互いに伝え合いました。コロナ禍でなかなかできなかった、一人ひとりの思いを交流できました。

今回の学習と交流を力に、署名運動を進めていきたいと思いを。



▲感想を話す松島医療生協の佐藤良治さん

▶相談後の感想を話す県南医療生協の芳原真由美さん

▶ケアマネジャーの悩みを相談中

▼人材育成について話す参加者



